

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202346		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム樹寿 1ユニット		
所在地	静岡県葵区瀬名3丁目38-8		
自己評価作成日	平成27年 9月 25日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個人の思いを尊重し、外出支援や個別ケアに取り組んでいる ・ご家族が来所した時、話をする機会を持ち、こちらでの生活の様子も伝える等して信頼関係が出来るように努めている ・毎月イベントを行い、楽しめる機会がもてるように力を入れている ・委員会活動を活発に行い、サービスの質の向上に努めている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202346-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者と職員、また職員間のコミュニケーションがとれていて、職員の離職者が少なく勤続年数が長い。働きやすい安定した環境で、利用者の状態把握を的確に行い、ケアが統一されているため、利用者の表情は穏やかである。個別ケアを行い、声掛けの仕方や対応をミーティングで話し合い、現状に即したプランを立て、達成表にチェックし本人にとってより良い支援に活かしている。7つの委員会は活発で、年間計画を立て毎月話し合いを行い、今何をすべきかを自分達で考える習慣ができています。防災訓練はいざという時不安なく対応ができるよう繰り返し行い、地域防災訓練では地域の人と協力体制があり、避難誘導を手伝ってくれている。事業所の建物の大家さんが材木に詳しいため建物内は木材がふんだんに使用されていて、平屋建てで玄関を挟み左右にユニットがあり広々としている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 11月 10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を玄関や談話室に掲示して、職員一人一人意識を持ってケアできるようにしています。	現管理者就任時に理念を見直し変更している。職員からキーワードを募り、会社の理念を取り入れ、具体的な目標を三つに決めた。全体会議で理念について話し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園児やボランティアの方がホームに来てくださったり、向えにある小学校の行事(運動会、マラソン大会等)見学に行っています。行きたい時に近所のストアへ行き、買い物しながらお話をされて交流を持たれています。	高齢者と関わる機会にと幼稚園からの要望で年2回の訪問があり、利用者は交流を喜んでいる。バイオリン・舞踊・フラダンス・手品等のボランティアを受け入れている。近隣住民から野菜の差し入れがあり、畑の指導もしてくれる。組長会議に出席している。事業所の祭りの案内を回覧板に出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部の研修で学んだことやホーム内で行った勉強会の内容を運営推進会議で紹介し、実際に体験して頂いたり、資料を配布する等しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月1回実施し、話し合いでの意見をサービス向上に活かしています。	年間計画を立て開催し、次の開催日を事務室の前に掲げている。家族・行政等考慮し土曜日としているが、参加者は夫々の理由で欠席があり、家族に呼びかけても参加が少ない。議事録はホームページに載せ、家族にはお便りで報告している。	毎回包括支援センターの参加を得て、有意義な運営推進会議が行われているが、より工夫をし地域の人や家族の参加を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や情報交換会等で取り組みを伝え、協力関係が築けるようにしています。	生活保護を受け入れ月1回情報交換に市窓口へ出向き、年1回来訪がある。地域包括支援センターの職員とは日頃から出向いたり電話をしたり、意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に勉強会をしたり、身体拘束の体験を行なってしています。職員は勉強会や体験を通して身体拘束をしないケアを考え取り組んでいます。	虐待を受ける側の体験(口の中にどんどん食べ物を入れる、トロミ食の試食、長時間椅子に座る等)を定期的に行っている。マニュアルを整備し、スピーチロックは皆で注意しあっている。大声を出す人には寄り添い原因をみつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に虐待防止に努めており、どのような時にストレスを感じ、どう対処しているか等、職員同士で話し合う場を設けて、職員全員が虐待を見過ごさないよう注意を払い、防止に努めています。		

静岡県(グループホーム樹寿 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等はありませんが、必要な情報があれば共有できるようにしています。関係者との話し合いも必要に応じておこなっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明をご利用者やご家族等に行い、理解、納得していただいています。職員もご家族からお話があれば管理者に引き継いだり、回答出来る事はお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者とは毎日のコミュニケーションの中で要望、意見等を聞き反映できるようにしています。ご家族は面会時にコミュニケーションをとったり、運営推進で話せる機会を設けています。他、玄関に意見箱をおき、意見を反映させられる環境作りをしています。	利用者には意見が言いやすいように話しかけている。言葉が発せられない人には表情を見てくみ取っている。やりたい事や行きたい所は云ってくれる。家族から「仕事をさせたい」、「体を動かして貰いたい」等の意見が出て、意見は申し送りに記入し、プランに反映させ達成チェックをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットでは毎月、全体では2カ月に1度ミーティングを行い、話し合いをしています。意見や提案がある時はその都度管理者に伝えることができる環境だと思えます。	管理者との面接は年2回あり、各委員会活動の話し合いの中で意見が出ている。施設は10年経っていて出された意見で備品や設備を変えている。管理者は出された意見に迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や人事担当者より職員個々の努力や実績、勤務状況を代表者に伝えていきます。職員がやりがいを持って働けるよう福利厚生や職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を受ける職員への助成金制度や働きながら通える勤務状況を作ったりしています。法人内での研修は以前は行いましたが今年度は各事業所内で、職員が主体となり学べる機会をつくっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が交流の機会を作ることはありませんが、管理者が決めて外部研修に職員を参加させたり、地域の同業者と情報交換会を行い、サービスの質を向上させる取り組みをしています。		

静岡県(グループホーム樹寿 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行って、生活環境を見させていただいたり、ご本人、ご家族の要望等お伺いし安心して生活が出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から困っている事、不安な事、要望をお聞きし、入居前から職員間で情報の共有をしています。毎月ホームの新聞を発行しており、その中にご利用者様を書きして生活の様子を知れるようにしたり、面会時には近況の報告をして関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも利用したいという要望は今のところありませんが、ご本人やご家族との話の中で何が一番困っているか、不安に思っているのかを見極め、サービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に台所仕事をしたり、洗濯物を干したり畳んだりを会話をしながら楽しんで行っています。その中で、どんな時に笑顔になるのか等様子を見ながら毎日楽しく過ごせる環境と関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の都合を考えながら、協力していただける所は協力していただいています。行事への参加もご家族に呼びかけ、一緒に楽しめる機会を作ったり、いつでも面会できるように面会時間を決めずにいつでも来られるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が遊びに来られたり、自宅までのドライブや外出、映画鑑賞、ご家族とお墓参り等関係継続の支援をおこなっています。	訪問理美容はあるが、利用者の馴染みの所への外出支援をしている。また買い物に出たりおやつを食べにでかけ、映画好きの利用者に3月に1回位職員がついて鑑賞に出かけている。要望があると出かけられるよう体調を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士でトラブルになりそうな時は職員が間に入り、架け橋になっています。又、ユニット間で自由に行き来ができ、歩行運動をしながら他ユニットとも顔なじみの関係を作れるようにしています。		

静岡県(グループホーム樹寿 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから連絡をして相談や支援を行うことはありませんが、相談等あった時は可能な限り協力し、関係を断ち切らない取り組みをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリングを通してご本人の思いや希望、意向等の把握をして介護計画書に繁栄させるようにしています。本人の思いに添ったプランを作り、職員が統一してサービスを提供できるように努めています。	個別にセンター方式を使用し、気持ちや行動の変化をみている。困難者は日々の行動を見て、接し方を試し、良い方法を採用している。お酒はノンアルコールを、喫煙者には時間を決め場所を提供している。新たな情報は、アセスメントや申し送りノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や他事業所から情報をいただく等行って把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の状態を把握して、一人ひとりに合った対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニットごとでカンファレンスをおこない課題とケアのあり方について話し合っています。日ごろの会話やモニタリングの際にご本人からの要望等をお伺いし、ご家族は面会時やプラン説明時に話をする機会を作り意見等を反映できるように努めています。	職員は計画書に従いケアを実施し、オリジナルの達成表にチェックしている。この表を見ながらカンファレンス・モニタリングを行っている。職員の意見を参考に、家族や医師、訪問看護師の意見を取り入れ、その人の今の状態にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人ひとりの様子の変化を個別の記録に記入し、申し送りで状況報告をする事で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や要望等に合わせて、出来る範囲でサービスの多様化に努めています。ご利用者に寄り添い、ご家族に日々の生活状況をお話することで要望を聞く機会を作っています。		

静岡県(グループホーム樹寿 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が近くのストアに歩いて買い物へ出かけたり、小学校の運動会を見学したり、近所を散歩する等、地域の方と挨拶を交わしなごみの関係が作れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族に意向を聞き、入居前に利用していたかかりつけ医に継続して受診することが希望であれば受けられるように支援しています。ホーム近くの病院へ変わる事もでき、納得したうえで治療を受けられるようにしています。	4月から往診を月2回以上24時間体制でクリニックと契約し医療連携している。また事業所の隣に内科医院があり、かかりつけ医となっている。入居前からのかかりつけ医へは家族対応で、困難な場合は事業所に対応している。情報を家族、医療と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所し、1週間の様子を伝え健康チェックをしてくれます。受診や対応の指示やアドバイスをいただいています。24時間連絡が取れる体制で協働しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報の交換や相談に努め、面会に出来る限り行き、様子を把握しています。退院時、看護情報提供書等をいただき、入院時の情報を共有しています。退院後も不明な点があった時は問い合わせ確認をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針を伝えていますが、重度化した際に改めて伝え、ホームで出来る事を十分に伝え、ご家族と協議しながら判断していただき、共有しています。	医師が重度化と判断した時点で医師・家族と三者で話し合いを行い、家族に重度化の指針やパターンを説明している。看取りは「家族の協力が必要」と話し意向を伺う。今年度看取りを行い、家族から「良かった」と感謝され、職員は「経験ができ勉強になった」と自信につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に急変時や事故で怪我をした時等の対応を勉強会で行っています。防災訓練の時に消防にお願いし、応急手当の訓練も一緒に行っていただいています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の他にも突発で様々な想定で訓練を行っています。年に1回は地域の防災訓練と一緒にいき、地域の方にも協力していただき、避難所までご利用者を誘導する訓練をしています。	10月地域の防災訓練に合わせ、避難場所の小学校まで誘導訓練し、地域の協力も得ている。突発で避難訓練を行う事で、夜震度4の地震の際は落ち着いて対応でき、近くの職員も駆けつけている。消防署とは煙体験訓練と応急処置の指導を受けている。備蓄は一週間分ある。	

静岡県(グループホーム樹寿 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりその方に合った接し方をしています。人に聞かれたくない内容(トイレ等)近くへ行き、小声で話しかけています。	声のトーンや言葉使いに気をつけている。状況を判断し、敬語を使用している。呼び名は「さん」を基本に、希望があればその呼び名を使っている。トイレ誘導は皆に聞こえないようにしている。ノックなしで居室に入ったり、トイレ介助時ドアを開放する等は委員会を通して全職員に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に1つの事を決めつけるのではなく、その方に合わせて選択肢を伝え、自己決定していただけるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出、散歩、買い物等、出来る限りご自分のペースで過ごしていただけるよう支援しています。職員の体が空かない時は少し待っていただいたり、日にちを決めて後日対応することもあります。ご希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好きな服を着ていただいています。介助にて更衣をする場合は選択して頂き、それを着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食品購入の買い物へ同行していただき、好みの物を聞いています。調理の準備、片付けもご利用者と一緒に行っています。	献立は特になく、冷蔵庫の中の材料を見て担当職員が調理している。時には利用者に献立の相談をしたり、食べたい物を聞いている。栄養は10品目の表でチェックし偏らないようにしている。食材は週2回野菜の配達や注文販売を利用しているが、利用者と買い物に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1汁3菜で提供し、10品目以上を心がけて食事作りが出来るよう表でチェックしています。水分摂取量はチェックし、摂取量が少ない時は味や形態を変えて摂っていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕と声掛けし、歯磨きを促しています。ご利用者によりセッティングのみ、介助等、状態に合わせて対応しています。義歯は夜間お預かりし、毎日洗浄剤につけています。委員会で口腔状態確認表を作り、個人別の対応を把握出来るようにして統一したケアが出来るように努めています。		

静岡県(グループホーム樹寿 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見て声掛け、誘導等でトイレで排泄が出来るよう支援しています。夜間は必要に応じて声掛けをしたり、自室にポータブルトイレを置いて自立に向けた支援を行っています。	基本的にはトイレでの排泄支援をしているが、無理をさせないようにオムツ使用者もいる。トイレ誘導を2人で介助する場合がある。転倒防止でポータブルトイレを使用する人がいる。パッドは利用者により使い分けている。男性トイレがあるが、今使用者はいない。トイレは頻りに消臭し臭いはない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックし、一日の摂取量が1200ml前後になるよう気をつけています。廊下を職員と一緒に歩いていただいたり、毎日午前中にテレビ体操をする等して運動する機会を持ち、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間などは決めずに希望やタイミングに合わせて支援しています。毎朝体調チェックをして体調を確認してから入浴していただいています。拒否があった時は無理強いはしませんが、入浴していただけるよう工夫をして支援することもあります。	最低週2回を基本に、ほぼ毎日の入浴も支援している。入浴時間は30～40分位で、時間も希望に応じている。入浴中は職員が就き会話を大事にゆったり入っていて、時には、友人同士で入る事もある。入浴を拒む場合には声掛けを工夫し、気分を変えてもらう等して粘り強く誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方は大体の時間を決めて自室へ誘導しています。その日の体調を見ながら必要に応じて声掛けや誘導をしています。ご本人が自由に休んで頂けるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調に変化があった時はすぐに医師や看護師に相談しています。薬が変わった時や新たに処方された時は副作用が出ていないか申し送りをして確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(食器拭き、調理、洗濯物干し、洗濯物たたみ等)や掃除等出来る時はご利用者と一緒に行い、できる力を引き出す支援をしています。アセスメントやモニタリングでその方の楽しみや生きがいを見つけ、ケアプランに繁栄できるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩に行ったり、イベントでドライブや買い物等外出の機会を作っています。個別にも希望に応じて床屋や映画鑑賞に行かれています。	利用者個々の歩ける範囲を職員は見極めて散歩をしたり、商店へ買い物に出たり、自動販売機まで行くなど工夫している。遠出は本人の希望が叶えられるよう家族に協力を依頼している。雨の日には別棟のユニットまで歩くなど支援をしている。	

静岡県(グループホーム樹寿 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金の所持を希望されている方は、ホームで管理させていただいている預り金よりその方が管理できる金額をお渡しし、いつでもご自分で使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際はホームの電話を使用させていただいています。又、ご家族の支援が必要な場合はこちらから電話させていただき、ご本人と話していただく等しています。手紙のやり取りはありませんが郵便が届いた際はご本人にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間がご利用者にとって不快にならないよう配置や温度管理、物音に気をつける等しています。毎月作っている樹寿新聞や、外出された時の写真を廊下に掲示しています。季節感を感じて頂けるように四季を感じるような貼り絵や創作活動をしています。	建物は木材をふんだんに使用し、天井は高く明るい。窓からは梅園や藤棚、季節の花、山が見える。不快な臭いはなく、台所からの良い香りに食欲がそられる。季節に応じた切り絵を製作したり職員と一緒にモップかけや手すりを拭くなど利用者は力を発揮している。ヘルメットや防災頭巾をすぐ使用出来る様に置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の居たい場所で自由に過ごされており、ゆったりとお話出来るように廊下にソファを置き、気の合ったご利用者同士でお話をされています。庭に出られる時は職員も同行し、日光浴をしながら談話を楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の前にご本人の使い慣れた物を使用させていただけるようご家族にお話しし、ご本人ご家族と相談しながら、使い慣れた物を居室に置いていただいています。ご本人が安全に心地よく過ごせるよう、状態に合わせて居室内の配置換えも行っています。	カーテン・ベッド・仏壇・テレビ・机や椅子等持ち込み、その人らしい居室となっている。事故防止委員会で本人の動線を考慮し、危険がないか検討している。家族が布団を持ち込み、職員が交換している。居室内でパソコンを使用したり読書をしたり庭の花を写真に撮り趣味を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室、トイレ等には目印のプレートをつけてわかりやすくしています。定期的に事故対策委員会が居室内の見取り図を作成し危険箇所がないか検証して危険箇所がある場合はご本人、ご家族と相談し、配置換えをする等して対策をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202346		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム樹寿 2ユニット		
所在地	静岡市葵区瀬名3丁目38-8		
自己評価作成日	平成27年 9月 25日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の思いを出来る限りお聞きしている ・個別ケアに力を入れている ・勉強会など行い、スタッフの質の向上に努めている ・職員が笑顔やユーモアを持ってご利用者に接している

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202346-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 11月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が実践に繋がるように、ご利用者一人ひとりを尊重し、耳を傾け、寄り添うケアに努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練や組長会議に定期的に参加しています。又、ホームの避難訓練に地域の方にも参加していただいています。地域の方に野菜を分けて頂いたり、畑のアドバイスを頂いています。近所の個人商店にご利用が買い物に行ったり、事業所の食料を購入しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部の研修で学んだことやホーム内で行った勉強会の内容を運営推進会議で紹介し、実際に体験して頂いたり、資料を配布する等しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、ご家族、地域包括支援センター、町内会、民生委員の方々と運営推進会議を一緒に行い、ご意見等頂きサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や情報交換会等で取り組みを伝え、協力関係が築けるようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をして委員会を設置し、ご利用者が自由な生活が出来るように取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、虐待防止に繋がる勉強会を行ったり、体験等を行っています。		

静岡県(グループホーム樹寿 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等はありませんが、必要な情報があれば共有できるようにしています。関係者との話し合いも必要に応じておこなっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明をして理解・納得を得ています。解約や改定時にも説明をして理解、納得をいただいています。その他、ケアプラン説明時や面会時等不安や疑問点をお聞きしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご家族の方が意見を投稿できるようにしています。ご家族から直接話があった時は申し送りをし、職員全員が把握するようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に一回全体ミーティングをおこない、職員の意見や提案を聞いたり、月1回ユニットミーティングで意見交換をできる状況を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や人事担当者より職員個々の努力や実績、勤務状況を代表者に伝えています。職員がやりがいを持って働けるよう福利厚生や職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を受ける職員への助成金制度や働きながら通える勤務状況を作ったりしています。法人内での研修は以前は行っていましたが今年度は各事業所内で、職員が主体となり学べる機会をつくっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が交流の機会を作ることはありませんが、管理者が決めて外部研修に職員を参加させたり、地域の同業者と情報交換会を行い、サービスの質を向上させる取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から、ご本人の要望、不安等お聞きしています。入居されてから再度アセスメントをとり、ご本人のお話、生活の様子を見て関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階からご家族に要望や不安なことがないか等、お聞きしています。プラン説明や面会時にお話を聞く機会を持ち、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントの時に、ご本人、ご家族との話の中で、要望やその時必要な支援をケアプランに繁栄し必要な支援を提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助者でもあり、生活を共にする家族として日々一緒に出来る事、出来ない事のお手伝いをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族がより良い関係で過ごせるよう橋渡しをしたり、日々の生活を伝え安心していただけよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がいつでも出掛けられたり、友人がホームに遊びに来られる様に支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の橋渡しをしたり、レクリエーションなどでコミュニケーションをとれる様に支援しています。		

静岡県(グループホーム樹寿 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設や病院へお見舞いに伺ったり、情報提供に努めています。退居されたご利用者のご家族が事業所に来てくださる等、退居後も関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話やアセスメント・モニタリングを通してご本人の希望や意向を把握するように努めています。又、健康面や経済面を理由にやむをえず本人の意向に沿えない場合は、事情を伝え、納得していただけるよう代案を伝える等して話をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの様子を把握できるように、初回アセスメントで生活歴や生活環境等詳しく書くようにしています。ご本人やご家族との会話を通じてもこれまでの暮らしや経過等把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の動きや言動をよく観察し、一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態の把握に努めています。又、家事やレクリエーション、買い物、散歩、入浴、排泄等、様々な場面において一人ひとりの有する力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向をもとに、主治医・訪問看護師や職員の意見を合わせ、現状に即したプランになるよう介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状況を2時間以上空かないように個別のケース記録を記入しています。何かあればその場にいる職員に口頭で伝え、不在の職員には日誌や申し送りや伝えることで、日々の対応に繁栄できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅総合診療の病院を協力医療機関を増やしていつでも医療が受けられる体制を作ったり(希望者)、ニーズに合わせて入居していても他のサービスが受けられるよう柔軟に対応しています。		

静岡県(グループホーム樹寿 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が近くのスアアや自動販売機に出かけたり、小学校の運動会を見学したり、近所を散歩する等、地域の方と挨拶を交わしなじみの関係が作れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族に意向を聞き、入居前に利用していたかかりつけ医に継続して受診することが希望であれば受けられるように支援しています。ホーム近くの病院へ変わる事もでき、納得したうえで治療を受けられるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所し、1週間の様子を伝え健康チェックをしてくれます。受診や対応の指示やアドバイスをいただいています。24時間連絡が取れる体制で協働しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報の交換や相談に努め、面会に出来る限り行き、様子を把握しています。退院時、看護情報提供書等をいただき、入院時の情報を共有しています。退院後も不明な点があった時は問い合わせ確認をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いの場を持ち、希望される方向を確認しながら支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎朝バイタル測定を行い、状態の把握に努めています。個人の状態に合わせて1日2～3回測定させていただく事もあります。全職員を対象に急変時や事故で怪我をした時等の対応を勉強会で行っています。防災訓練の時に消防にお願いし、応急手当の訓練も一緒に行っていただいています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の他にも突発で様々な想定で訓練を行っています。年に1回は地域の防災訓練と一緒に、地域の方にも協力していただき、避難所までご利用者を誘導する訓練をしています。		

静岡県(グループホーム樹寿 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するよう声掛けに配慮し、笑顔で対応するよう心がけています。ご利用者との些細な会話もプライバシーに配慮し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を尊重し、一方的に1つの事を決めつけるのではなく、その方に合わせて選択肢を伝え、自己決定していただけるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりご自分のペースで毎日を過ごせるようお話を聞いたり、希望に沿ったケアできるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好きな服を着ていただいています。介助にて更衣をする場合は選択して頂き、それを着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にアレルギーや苦手な食材がある時は食べられる食品を代わりにお出ししています。職員と一緒に台所に立ち食事作りや片付け等されています。パンバイキングやお好み焼き等、楽しんで食事が出る機会を作り工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医にも相談し、食事の摂取量を調整したり、水分チェック表を見ながら水分が少ない方には促しています。バランスよい食事ができるよう10品目の表を使って、表を見ながら献立を決める等活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けや誘導にて口腔ケアを行っています。口腔ケアの表を作り、個人に合った口腔ケアが出来るようにしています。		

静岡県(グループホーム樹寿 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄状態を確認し、トイレで排泄が出来るよう声掛けをしています。検討が必要な時はカンファレンスでその時に合った排泄方法を考えています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のために、水分を多めに摂取できるようチェック表を見ながら注意を払い、朝は牛乳やヨーグルト、果物等取り入れて工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体の清潔も大切なので、お勧めしますが、ご本人が気分に乗らない時は、ご本人の希望を尊重し、タイミングを見計らって入浴していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間におられても傾眠されていたり、疲れている様子が見られた場合は、声掛けをして居室へ誘導し休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬には細心の注意を払い、いつもと違った症状が見られた時には、その都度受診を検討したり、医師や看護師の指示を仰いだりする等、適切な対応をとるように心がけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中でご利用者が自分の出来る事を通して、張り合いや生きがいを持てるようアセスメントやモニタリングの中から見つけ、カンファレンスで話し合っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候などの関係で予定していた支援が出来ない場合もありますが、本人の希望に沿ってできる限りの支援をするよう努めています。		

静岡県(グループホーム樹寿 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理されている方もいて、買い物等でお金を使い、少なくなった時に預り金からお渡ししています。普段ご自分で持っていない方でも買い物の際にお金を渡し、ご自分で支払っていただく事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より電話や手紙の希望がありましたら、やりとができるように支援させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、声、音などにも気をつけています。季節感を取り入れる為に花を飾ったり、その季節の創作を作って飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にて話をしながら新聞折りをしたり、ソファーに座りゆったりとお話しができたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた物を持って来て配置したり、好きなカレンダーや写真等飾り、ご本人が居心地よく過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に活動できるように手すりが付いて廊下など段差もなく工夫されています。		